

津波避難ビルに 国立和歌山病院

美浜町と協定



美浜町と国立病院機構和歌山病院(美浜町和田)は、同病院の新病棟(4階建て一部5階)を津波避難ビルに指定する協定を締結した。写真。屋上約3200平方メートルに約1600人を収容できる。同町の津波避難ビルは16か所目。

県の想定によると、南海トラフ巨大地震の津波で同町は町域の46%、平野部の90%以上が浸水する。避難場所の確保は急務で、昨年4月に利用が始まった新病棟が耐震性にも強いことから、町が要望していた。

屋上(4階)は海拔26メートル。2階以上は浸水しない見通しで、同町和田の東地区住

民や近くの松洋中学の生徒らの避難を想定。門に近い病棟北西と南東の2か所の非常階段から屋上に上がることもできる。非常階段に入る鍵を収めた箱を近くに設け、震度5以上の地震で自動的に開く仕組み。

13日に町役場で締結式があり、森下誠史町長と南方良章院長が出席。森下町長は「安心・安全なまちづくりへの協力に、町民を代表してお礼申し上げます」と述べた。